

令和6年4月2日

土佐リハビリテーションカレッジ
理事長 大崎 博澄 様

学校関係者評価委員会
委員長 北村 剛

第10回 学校関係者評価委員会報告書

令和5年度開催 第10回 学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小笠原 正 (企業等評価委員)
- ② 一圓 智加 (企業等評価委員)
- ③ 細田 里南 (卒業生評価委員)
- ④ 北村 剛 (卒業生評価委員 委員長)
- ⑤ 大窪 康介 (専門家等評価委員)
- ⑥ 濱川 美香 (高等学校等評価委員)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 平成27年8月29日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
第2回委員会 平成28年10月1日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
第3回委員会 平成29年7月29日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
第4回委員会 平成31年3月26日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
第5回委員会 令和3年7月9日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
第6回委員会 令和4年3月29日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
第7回委員会 令和4年12月16日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
第8回委員会 令和5年3月30日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
第9回委員会 令和6年1月17日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
第10回委員会 令和6年3月27日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)

3 学校関係者評価委員会報告書

別添のとおり

以上

別添

令和6年4月2日
土佐リハビリテーションカレッジ
学校関係者評価委員会

第10回 学校関係者評価委員会報告書

令和6年3月27日に開催された委員会の討議に基づく検討課題と改善に向けた取り組みについて
評価結果をまとめた。

1. 国家試験合格率について

【令和4年度の取り組み】

○国家試験合格率「新卒者 100%」に向けての状況

- ・第59回国家試験が令和6年2月18日に実施された。理学療法士国家試験では、全国において新卒受験者11,408名に対し合格者10,858名（合格率95.2%）であった。一方、本校においては新卒受験者25名に対し合格者24名（合格率96.0%）であった。

作業療法士国家試験では、全国において新卒受験者5,019名に対し合格者4,583名（合格率91.3%）であった。一方、本校においては新卒受験者24名に対し合格者19名（合格率79.2%）であった。

両学科共に「新卒者合格率100%」の目標を達成できなかった。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 全国合格率との比較について
- ② 両学科間での合格率のひらきについて

【学校からの回答】

- ① 合格率（全国平均）は年々低くなる傾向がある。
- ② 理学療法学科は、退学率が高かったことに対して、作業療法学科は退学率が低かったことも相関関係があるのかもしれない。

2. 4年間卒業率について

【令和5年度の取り組み】

○4年間卒業率「90%以上」に向けての状況

今春、第28期生49名が社会へと巣立った。

平成30年度入学生であった第28期生の入学者数は、理学療法学科36名、作業療法学科25名であった。これら入学生の内、本校修業年限の4年間で卒業できた者は理学療法学科で25名（卒業率69.4%）、作業療法学科で23名（卒業率92.0%）であった。また、第28期入学生の中で国家試験に合格した者は理学療法学科24名（合格率66.6%）、作業療法学科19名（合格率76.0%）であった。

なお、参考資料として厚生労働省第1回PTOT学校養成施設カリキュラム等改善検討会の資料（平成29年6月付）では4年制リハビリテーション専門学校（昼間）の卒業率と国家試験合格率は理学療法学科で66.5%と53.0%、作業療法学科で63.9%と60.4%であった。

作業療法学科は、運営目標値、文部科学大臣認定「職業実践専門課程」要件の一つである「卒業率70%以上」ともに達成することができた。

【学校関係者評価委員からの意見】

① 退学理由について

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 入試等でほぼ、全入ということに加えて、高等学校卒業までの学習の習慣が備わっていないことが原因の一つではないかと考えられる。また、卒業率と国家試験の模試の平均点が反比例しており、一定早い段階で勉学に意欲のない退学者が多く出た理学療法学科が良い成績を残していることにも影響していると思われる。

3. 退学者数および留年者数について

【令和5年度の取り組み】

○退学者数および留年者数「年間の退学者数3名以内・留年者数3名以内」に向けての状況

- ・令和5年度当初の在学学生総数は234名（理学療法学科118名、作業療法学科116名）であった。最終集計は、3月末になるが、現状では退学者数は16名（理学療法学科11名、作業療法学科5名）、留年者数は8名（前期0名、後期1名：理学療法学科1名、作業療法学科0名）である。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 1年次に多く辞める理由は何かあるのか。
- ② 進路変更した後の行先はどこなのか。

【学校からの回答】

- ① 高校生から続いたコロナが一定影響したのかもしれないが、はっきりとした原因はわからない。
- ② 進路変更先は学生により、千差万別で何か一定の傾向があるわけではない。

4. 入学試験受験者実数について

【令和5年度の取り組み】

○入学試験受験者実数「100名以上」に向けての状況

- ・次年度入学予定学生数は、科理学療法学専攻・作業療法学専攻ともに27名、である。入学定員数70名に対して、受験者実数は58名（理学療法学科29名、作業療法学科28名）にとどまり、前年度受験者実数59名（理学療法学科29名、作業療法学科30名）よりも減少し、運営目標の達成は叶わなかった。
- ・高知健康科学大学としての受験者実数増加のためにオープンキャンパス開催や進学ガイダンス参加、高等学校訪問等の多様な広報活動を計画・実行した。4月から12月までの6回分のオープンキャンパスの参加数は、昨年度実績：292名（受験希望者：201名、保護者91名）よりも多く、今年度実績：418名（受験希望者：280名、保護者138名）であり、関心の高さは実感できたが、受験者の増加にはつながらなかった。

【学校関係者評価委員からの意見】：

- ・特になし。

5. 就職率について

【令和5年度の取り組み】

○就職率「100%」に向けての状況

- ・両学科の就職率は第1期卒業生以来、27年連続して100%を達成できている。今年度卒業の28期生に関しては、ほぼ就職決定しているが、1名（理学療法学科）国家試験後の就職活動となり、現在就職活動中である。

令和5年度採用の求人数は、理学療法学科2,505人（内、高知県内81人）、作業療法学科2,143人（内、高知県内70人）であった。昨年度に引き続き前年度に比べて全国・高知県内の求人数は増加している。新型コロナウイルス感染症が一時期よりも落ち着いた影響もある。また、県内では、一部の病院では若い世代が病院からの離職が増加している情報もあり、理学療法士・作業療法士の取り巻く環境の変化が伺える。求人施設も訪問リハ、デイケア・デイサービス事業所、放課後児童デイ、幼稚園などより地域に密着した施設からの求人が増えてきており、就職先の方向性が多様化している。

今後は、公的保険外でのヘルスケアなど更なる領域の拡大が考えられることから教育内容の見直しや就職対策、学生の意識改革などをより意識して学生支援を行う必要性を感じている。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・特になし。

6. その他の報告事項

・地域貢献／いのちの基金

オーテピア高知図書館との共催（4年連続）にて10月にイベントを開催した。今年度は、小学生イベント「バランス能力をパワーアップ!」、高校生イベント「スポーツ障害を予防する! 体のケアとランニング」を開催し、地域住民の方に貢献することができた。

次年度もオーテピア高知図書館との共催で「痛みのメカニズムと対処法を学ぶ」に対するイベントを5月に開催することが決定している。本イベントは、いのちの基金での助成金（奥田教員：令和4年度）のもと実施される。

いのちの基金においても昨年度に引き続き本年度も3名の研究が採択された。今後大学では、科研費研究など他の助成研究などの獲得にも力を入れて、より研究力の向上や地域貢献につなげていきたい。

2023年度 いのちの基金研究一覧

- ◆竹林副校長「人生の生きがい感とメンタルヘルスとの関係」
- ◆渡邊 PT 学科教員「高知県内の市民ランナーの体力向上に関わる要因分析」
- ◆稲富 OT 学科教員「肢体不自由児に対するデジタル機器を用いた運動教室」

【学校関係者評価委員からの意見】

特になし。